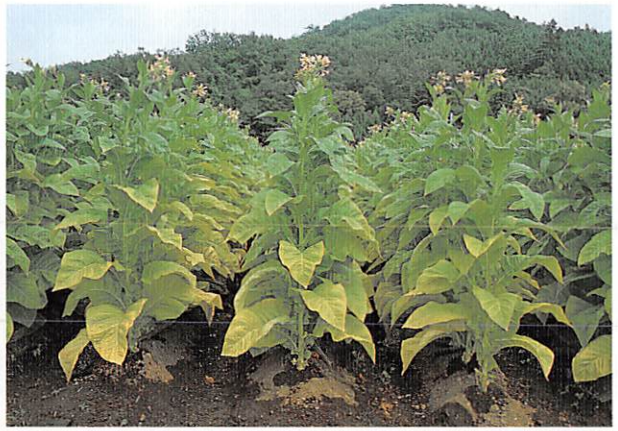
植物としてのたばこ

タバコ葉として利用されてきた植物はナス科タバコ属の植物です。タバコ属は南北アメリカ大陸、オーストラリアなどで65種が知られていますが、たばこに利用されてきたタバコ植物はアメリカ大陸先住民の栽培種であるタバコ（タバカム：*Nicotiana tabacum*）とマルバタバコ（ルスチカ：*N. rustica*）です。コロンブス到達当時アメリカではタバコは熱帯地域を中心に、またマルバタバコは北アメリカの東部森林地帯やカナダ、メキシコ、ブラジルさらにチリなど各地で栽培されていました。現在、タバコは世界120ヵ国中で栽培されていますが、ニコチン含有率の高いマルバタバコの商業的な栽培は歴史的にみてもロシア、インド、北アメリカの一部などに限られてきました。



タバコ（*Nicotiana tabacum*）
（たばこと塩の博物館提供）

1996. 7. 13(土)～9. 22(日)

開館時間　9:30～16:30
（7月13日、14日および9月18日～22日）
9:30～17:30（7月16日～9月15日）

休 館 日　月曜日、7月23日、9月17日

特別展観覧料

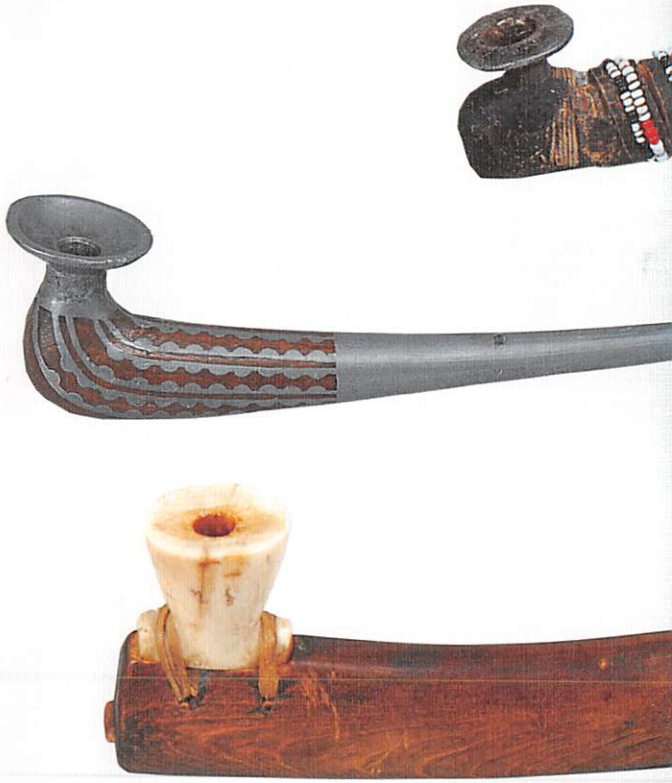
一　般	高校生・大学生	小学生・中学生
250(200)円	80(50)円	50(30)円

※カッコ内は10人以上の団体の場合

第11回特別展

たばこと民族文化

―たばこが北方に伝わるまで―



出品協力　国立民族学博物館
たばこと塩の博物館

北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

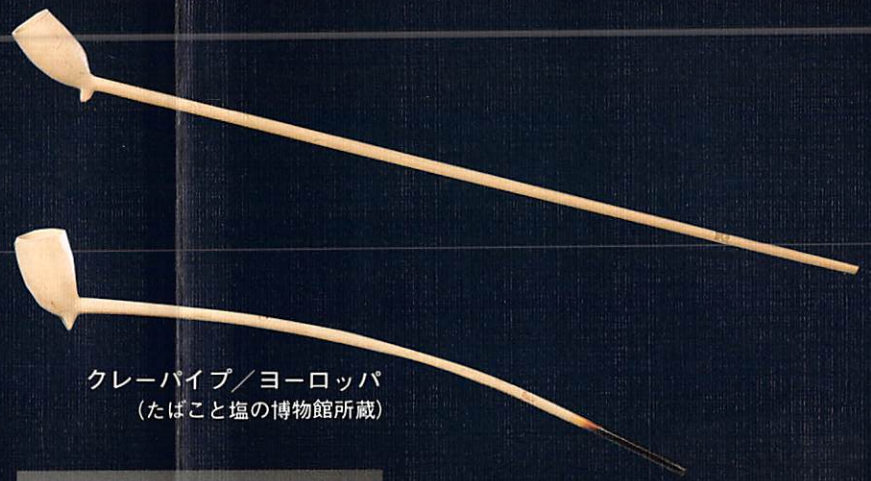
〒093 北海道網走市字潮見313-1
☎0152-45-3888

たばこ文化

たばこはアメリカ大陸でうまれた文化のひとつです。アメリカでは栽培したタバコ葉をパイプや葉巻による喫煙や嗅ぎたばこ、噛みたばことして利用し、たばこは嗜好品としてばかりか薬用や占い、神々の意思を知る儀式でも重要な役割をはたしていました。たばこはやがてヨーロッパをつうじて世界各地に紹介され、それぞれの地域で嗜好品として流行するなかで独特のたばこ文化が形成されました。

世界各地の多様なたばこ文化は、近年、紙巻きたばこが急速に普及するにしたがって消滅しようとしています。また、喫煙による健康障害がクローズアップされてきているように、世界中で受容された嗜好品の立場は変わりゆく時代の価値観のなかでゆらいでいるように感じられます。

このようなたばこの歴史をふりかえることによって、文化の伝播や定着、交流の在り方がしだいにあきらかになってきます。今回の特別展ではアメリカ、ヨーロッパ、アジアなど各地の喫煙具等の展示をつうじてたばこ文化の軌跡をたどり、時代や地域におけるたばこ文化の在り方を紹介します。



クレーパイプ／ヨーロッパ
（たばこと塩の博物館所蔵）

嗅ぎたばこ・噛みたばこ入れ／コリヤーク
（当館及び個人所蔵）

水パイプ／イラン
（たばこと塩の博物館所蔵）

きせる屋看板（村田屋）／日本
（たばこと塩の博物館所蔵）

北方地域のたばこ

北方地域ではタバコ葉は交易品としてもたらされ、毛皮交易の主力商品となっていました。とくに北東アジアにおけるたばこ普及は中国清朝の成立・安定とロシアのシベリア進出によって拡大します。コロンブス以後アメリカを旅立ったたばこは２世紀あまりで北東シベリアに達し、その後ベーリング海峡をはさんだ民族交流をつうじて対岸のアラスカへ再上陸をはたします。北東シベリアでつくられたパイプやアジアのキセルがアラスカに渡っていたこともこの事実をうらづけています。

嗅煙

ブラジル・アマゾンのパイプ
（国立民族学博物館所蔵）

嗅ぎたばこ・噛みたばこ

嗅ぎたばこチューブ／ペルー
（国立民族学博物館所蔵）

嗅ぎたばこ入れ／中国
（たばこと塩の博物館所蔵）

パイプ（キセル）／アラスカ・イヌイト
（当館所蔵）